

## [021]教育経営学研究紀要目次等

<https://hdl.handle.net/2324/2230977>

---

出版情報：教育経営学研究紀要. 21, 2019-03-29. The Laboratory of Educational Administration,  
Educational Law Graduate School of Kyushu University

バージョン：

権利関係：

あとがき

研究室紀要第21号（通巻29号）が完成しましたので、ここに謹んでお届け致します。

本年度、九州大学は百年の歴史を刻んだ箱崎（福岡市東区）の慣れ親しんだ地に別れを告げ、後期より伊都地区（福岡市西区）の新キャンパスに完全移転しました。この節目にあたり、研究室も上半期は引っ越し作業に追われました。これまで小講座（実験講座）をベースに保有していたスペースよりかなり手狭になることもあって、断捨離をすることが必須でした。研究室に蓄積されてきた思い出の品々を整理し、8月末には多くの卒業生・修了生とともにフェアウェルパーティーを開催し、気持ちの整理を行いました。それでも捨てられないものは多く、高野桂一先生の手書きの博士論文や西睦夫先生蔵書の寄贈図書など、500箱ほどの荷物をプロジェクト室と教員室に運びいれました。

これまで旧・小講座ごとにあった院生室も、新キャンパスでは教育システム専攻院生の共同部屋となり、ノンアドレスのため個人占有の机がなくなりました。また新キャンパス自体が都心から離れてアクセスが悪い（かつ交通費が嵩む）ため、院生・学部生の出校率もかなり下がってしまいました（箱崎時代は不夜城の大学に泊まり込んで論文を書き続け、お風呂入りにちょっとだけ帰宅してまた戻ってくるといったことも日常でしたが、終電・終バスが気になる伊都キャンの夜は早い…）。そうした中で、卒論・修論・博論や個人研究等を進めるゼミを行い、また受託研究や科研などのプロジェクトを遂行し、さらには学会業務（現在は日本教育経営学会研究推進委員会事務局、九州教育学会紀要編集委員会事務局等）を研究室としてこなしていくためにはかなりの工夫が必要になっています。

そのためにも教育法制・教育行政学プロジェクト室を中核として伊都に居場所を作り、収容冊数約350万冊（うち開架200万冊）、座席数1377席と国内最大級を誇る中央図書館や日本一となった広大なキャンパスを味わい尽くせるような手立てを考えたいと思います。

平成30年度の研究室の概況ですが、まず助教の兼安章子さんが4月より福岡教育大学の教職大学院に講師として就職されました。あわせて博士論文もまとめられ、年度末に学位を授与される見通しです。また博士後期課程には柴田里彩さん、社会人の小杉進二さんが10月に進学し、D.C.が10名となりました。これから出口が気になりますが、ただ幸いなことに原北祥悟さんが第一工業大学（鹿児島）への就職が決まりました。小林昇光さん、鄭修娟さん、柴田里彩さんとともに今号も研究室紀要の編集委員を務めてくれています。こうした院生たちの献身的な作業により研究室は何とか動いています。

また、学術論文に対する審査は今回も「きたもん權」（OB・OG）メンバーにお願いし、査読体制を維持することができました。厳しく温かく鋭いコメントに感謝します。

世の中では流行語のように平成最後という枕詞が続いていますが、平成元年に大学院に進学してこの研究室紀要に携わるようになり、平成15年に九州大学に帰還して紀要発行を引継ぎ、なんとか「平成最後」まで研究室単位で紀要をこのように発行することができました。もちろん研究室紀要の発行は来年度以降も続く予定ですが、＜平成最後＞の研究室紀要をご笑覧いただき、ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひしたいと存じます。

平成31年の早春 伊都キャンパスで  
教育法制研究室 教授 元兼正浩